



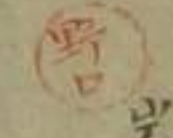

1543




七年十一月十三日

長官 

御用掛

萬國公法中戰時関涉ノ條例別紙目錄ノ通り取
引候間一應供電覽候也

  岩橋 



114
A2797



目錄

- 國人戰時心得書 附護身護貨票及清國旗章
- 一 居留支那人處置條例 十款
- 一 戰時心得 二十款
- 一 局外條例 十七款
- 一 待敵條例 七款
- 一 捕擊條例 二十五款
- 一 查船條例 五款
- 一 停兵條例 十款
- 一 封港條例 十二款 外二款未決

大正十一年四月
侯爵郵寄

警務局

一 抵償條例 十二款

一 和約條例 二十款

一 雜例 二十二款

戰時內國人民心得書

一 敵國人民ト交易往來不相成事

但特別ノ免許ヲ與ヘシ者ハ此例ニ在ス

一 敵國ノ外海外各國ト通商往來總テ是前ノ通

可相心得事

一 敵國ノ内通シテ我國情ヲ探偵等致シ候ハ嚴

禁ノ事

一 敵國人民トノ貸借ハ交戰中ハ可成合事

一 陰カニ敵貨ヲ申請シテ金銀ヲ募リ右金銀ヲ

敵國ニ送ルハ嚴禁ノ事

一 敵國ニ居留スル人民ハ我カ公使領事ノ内ヨ
リ布令スル日限内貨物取纏歸國可致事

一 右歸國ノ時我カ公使領事ノヨリ持歸ル所
ノ貨物目錄ヲ可申請事

但時機ニヨリ我將官ヨリ相渡ス儀モ有之
ヘキ事

一 右日限内帰装セズ程過キテ始テ敵地ヲ離
レ者ハ其貨物ヲ没収可致事

一 右日限ニ関セス依然敵國ニ滞在スル者ハ其
財産ハ没収イタスヘキ事

一 航海スル者黄龍ノ旗ヲ掲ケシ兵船ヲ見受候
ハ、速ニ避去リ可申事 旗号別ニ因アリ

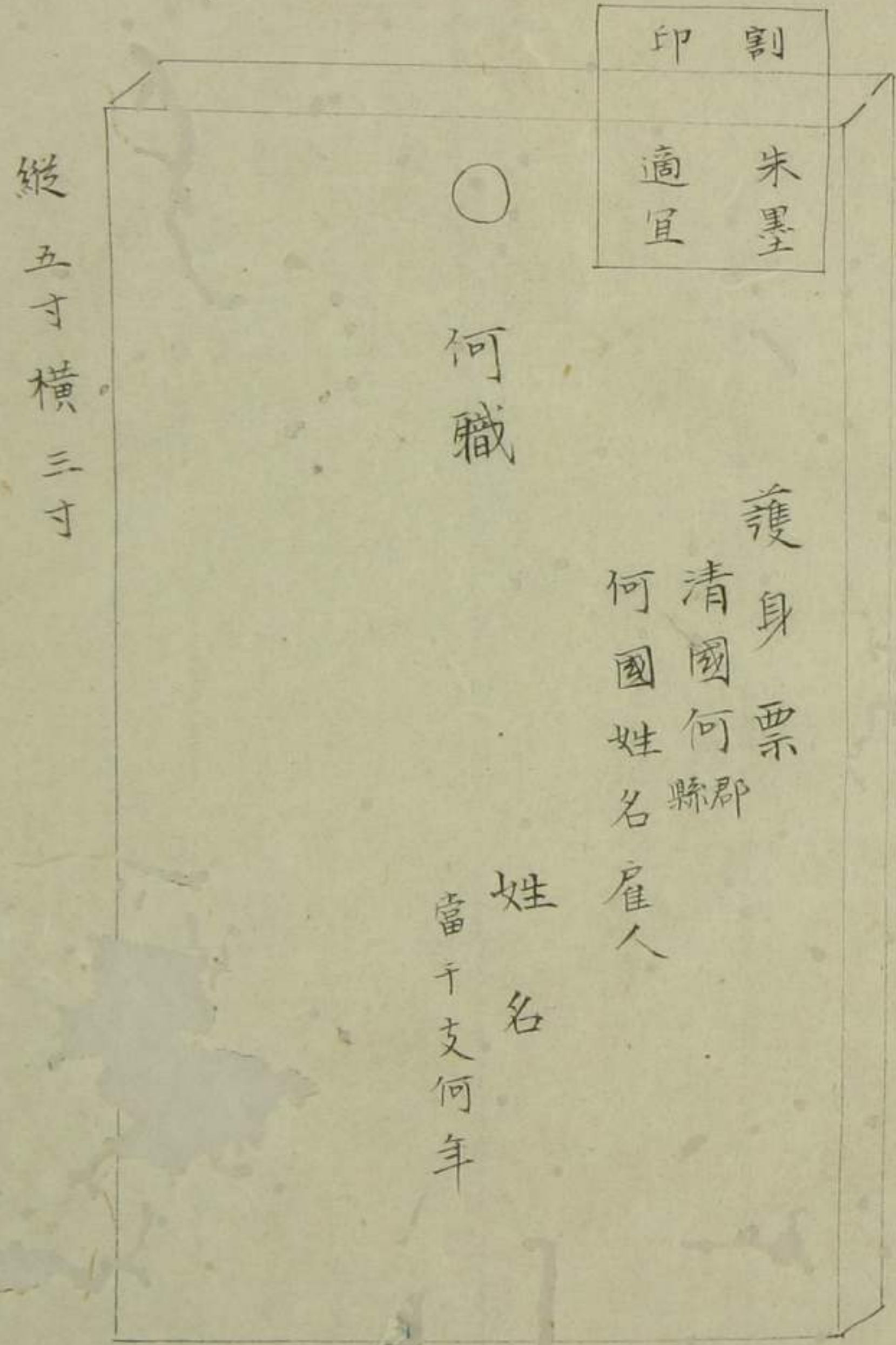
一 海中ニ於テ假令風浪ノ難ニ遇ヒ候トモ敵國
ニ立寄ニレク最寄局外ノ地 瑪港類ニ相避ケ

申ヘキ事
一 居留地ニ有之敵國人民ノ残置キシ家屋焼毀

等致スニシキ事
一 軍人ニ非スレテ敵人ヲ害スルハ嚴禁ノ事

但敵國未犯ノ節自護トタメニスルハ此例
ニ在ラス

木札表面書式



外國人雇入ノ支那人在留中護身票雛形

一 何月何日ヨリ四十日ヲ過干我國在留免許ノ
 鑑札所持無之敵國人民ハ取押ヘ置其官轄廳
 へ可届出事
 一 自費ヲ以テ敵船ヲ掠奪致度モ
 地方廳ヲ經テ可願出詮議ノ上許可致ヘキ事

式書面裏同

支書之者何國人誰ノ准ハテ以某年
 月日ヨリ何ノ月間在留免許候事
 明治何年何月日

○ 何縣府廳

燒印

式書面表札木

引拂日限外在留ノ支那人護身票雛形

割印
 朱墨
 適宜

護身票
 清國何縣郡

○ 何職

姓名
 当于支何年

縦五寸横三寸

同裏面書式

表書之者何疾病ヲ以テ某年月日ヨリ
更ニ四十月間在留免許候事
 明治何年何月日

○ 何府廳

燒印

用紙程村

歸國ノ支那人護貨票雛形

護貨票

清國何縣郡

持主 姓名

当支何年

- 一 何品
- 一 何々
- 一 何々

割印 合何百何拾品

右者某年月日ヨリ何職ヲ以日本國何縣寄留今般前書之品
 帶持歸國候ニ付遂替查候処疑敷職無之候間何月何日何港出
 帆何港向々歸航差許候仍テ護貨票如此候也
 明治何年何月日

海外派出

日本國陸海軍

御中

日本何港税関

印

清國旗章略之

居留支那人處置假條例

第一款

一 凡ツ支那人我園ニ居留スル者ハ外國人雇入
ヲ除クノ外一切ニ居留ヲ禁シ退去歸國セシ
ムベシ

但シ外國人雇入ノ者ヲ處分スルハ第九款
ニ照スヘシ

第二款

一 退去ノ期度ハ某月某日
内國宣戰ヨ 四十日
間ヲ以限ラス

但疾病事出テリテ前限ニ退去シ難キ者ハ
取調ノ上更ニ四十日ノ延期ヲ許シ別紙雜
形ニ照シ護身票ヲ與フベシ

第三款

一 期限已ニ過キ猶退去セサル者ハ兵器ヲ不帶
ノ敵ト見做レ其他ノ巡查ヲシテ取締ヲ致カ
レハヘシ
但抵禦セサル者ハ捕縛スヘカラス

第四款

一 退去ノ節其所有ノ物品ヲ船載スルハ隨意タ

ルヘシト雖モ該地ノ税関ニ於テ取調ノ上護
貨票ヲ與フベシ

但税関ヨリ下ケ渡ス護貨票面ニハ必ス其
箇數ヲ詳記シ典フヘシ然ラサレハ我巡洋
船ノ捕拏ヲ免カル、トヲ保スル能ハス

第五款

一 退去ノ後其自己營スル所ノ屋房ヲ殘シ置モ
ノハ内民外人ヲ論セス托テ之ヲ証人ト為
シ其地租諸公費ヲ納メシムヘシ
但証人引受ナキ屋房ハ區戸長並巡查ニテ

他人ノ残留スルモノヲ警察注意スヘシ

第六款

一 退去限内ニアリト雖モ密クニ彼國政府ノ命ヲ受ケテ内國事情ヲ探偵スルモノアラハ即時捕縛シテ何分ノ處置ヲ伺出スベシ

但外國人雇入ノ者タリト雖モ本條ノ所業アレハ即時捕縛シテ其旨ヲ雇主ヘ申入ルヘシ

第七款

一 内國人民ニ関涉スル借貸ハ戰時ニ在テハ其

討索ヲ許サス

第八款

一 退去限内我國人民ニ對シ互ニ日需物品ヲ賣買スルコトハ妨ケスト雖モ持ニ共ニ相合夥シク賣買スルコトヲ固ク禁スヘシ

第九款

一 外國人雇入ノ者ハ其雇主ヨリ自許引受證書ヲ出サレタ其地方長官ヨリ雇主ヲ經テ護身票ヲ與ハ居留ヲ許スヘシ
但身許引受書簿ハ列紙雛形ニ照準シ其地

方廳ニ之ヲ取リ置キ其旨ヲ届ケ出ツヘレ
第十款

一 外國人雇入ノ者外出ノ節ハ心ス護身票ヲ帶シ
巡查等臨時稽查ヲ行フ時ハ其票ヲ擎示スベシ

外國人雇入支那人身許引請證書離方

清國何州郡縣何池

姓名

右ノ者何年何月ヨリ拙者雇入置候モノ相違無之候向後同人儀日本國ニ對シ不將ノ筋カ或ハ不審ノ慮有之地方廳ヨリ呼出シアルカ或ハ臨時捕縛相成候トテ拙者一言ノ議無之候依之身許引請狀如件

年月日

何港在雷
何府縣在雷

香港通商章程

其他民間種々營業ニテ武事ニ関セザル者ハ
害ス可カラズ

但兵仗ヲ帶シ及ヒ條規間諜ノ犯ス者ハ七月
ニ非ス

第三款

神廟文職ノ公廨学堂書庫博物館名所旧跡及ヒ
ソノ内ニアル高名ノ物品ハ燒毀ス可カラズ

第四款

戦場ニ在ル貨物ハ公私ヲ論セズ一俟捕拏シテ
戦利トナスト雖モ民間ノ貨物ハ捕拏セス其レ

ニ代フルニ軍費ヲ賄ハシムルモ適宜タル可シ

第五款

戦場ノ外民間ノ私物ハ捕拏ス可カラズ

但公物ハ此例ニ在ラス
公物私物ハ捕拏
條例ニ詳カナリ

第六款

敵國ノ地方ヲ鈔掠シ城池附近ノ村庄ヲ燒毀ス
ルハ禁スル所タリト雖モ島已ムヲ得ザルノ權

ニ出テ、之ヲ行フコトアリタ
トス

第七款

生擒者若逆... 不服カ或ハ内應ヲ為ス
ニ非レハ決シテ他故ヲ以テ殺スルカラス

但我カ兵ノ敵ニ擒ニセラレハ者ト互換シ
ハ金ヲ索メテ贖還ヲ許シ等適宜タル可シ

第八款

敵國ノ使臣外國へ派出スル者ハ之ヲ捕ヘ其
路ヲ絶ツ可シ

但シ已ニ局外ノ地ニ至リ其國ノ礼接ヲ受ケ
タル上ハ捕フ可カラズ

第九款

敵國ノ船大海上ニ在ル者及ヒ海口ニ在ル者ハ
共ニ捕拏ス可シ

但局外國ノ管轄ニ係ル所英里法三里即我四
十丁四十三間余
ニ在ル者ハ此例ニ在ラス

第十款

敵國ノ員ハ局外船ニ在リ之ヲ捕リ戦利トナ
ス可シ

但敵貨ヲ既ニ登岸セシモノ及ヒ局外
地ニ在ル者ハ此例ニ在ラス

第十一款

敵國ノ船局外ノ貨ヲ載スルアラハ其船ヲ捕ヘ其貨ヲ交還ス可シ

第十三款

局外ノ船故ラニ封港ヲ犯シ或ハ稽查ヲ強索スル者ハ其船貨ヲ捕フ可シ

但封港ハ実勢ヲ以テ行フ可ク虚声ヲ以テス

ヘカラス稽查ハ私船ニ施ス可ク公船ニ行フ

可カラス封港條例
除例ニ詳ナリ稽查船

第十四款

局外ノ船敵國ノ為ニ密書ヲ寄セ敵ヲ助ケル

カ又ハ敵國ノ兵ヲ載スルアラハ稽查シテ其船ヲ捕フ可シ

第十五款

局外ノ船禁物捕拏條例
ニ詳ナリヲ載セ敵國ヘ赴ク者ハ

稽查ノ上船貨同主ナレハ均シク禁物ト共ニ捕

拏ス可シ若シ船貨異主ナレハ船中ニアル禁物

ト敵貨トシ捕拏ス可シ及ハ船貨異主ナレハ船

照ヲ贋造シ詞ヲ他往ニ託スル者後查出ニ及ブ

カ又ハ友邦ノ約ニ背キ私ニ禁物ヲ搬運スル者

アラハ船貨ヲ捕拏ヘシ

但禁物ヲ節ニ售リシタル後其持ル所ノ金銀ヲ載タル者ハ此例ニ在ラス

第十五款

我カ人民敵国ニ在リ宣戦後尚回リ来ラサル者ハ其家資ヲ没收ス可シト雖モ若シ遠方ニ客行スルカ故ニ日期ニ没レテ帰国ヲ乞フ者アラハ事實調査ノ上將師若クハ参謀ヨリ護身並護資ノ証票ヲ渡レ我カ兵ノ捕護ヲ豫防ス可シ

第十六款

我カ人民戦争アルヲ知リ故ラニ敵国ニ到リ買

易装貨スル者アラハ其船貨ヲ捕撃ス可シ

但特許免状ヲ所持スル者ハ此例ニ在ラス

第十七款

停兵中襲撃ハ勿論分捕等ヲ為スヲ許サス若停兵ノ日限既ニ了リ復戦ヲハ別ニ宣告ヲ用マス且約上日期ヲ定メス或ハ之ヲ定ルモ時日長クナレハ再戦ノ時必ス敵國ニ宣告ス可シ

但停兵中兵ヲ招キ糧ヲ調ハ軍器ヲ製造シ友國ノ援兵ヲ受ケ砲臺城池ヲ修築スル等不可ナルハシ

第十八款

例ヲ照シテ捕ル所ノ動物捕斃ノ部ニ詳ナリハ二十四時
 間ヲ過ルカ又ハ我カ陣營ノ内ヘ持来テハ交還
 セサルヘシ其不動物捕斃ノ部ニ詳ナリ如キハ原主ニ
 還スヲ常例トナス然レ既ニ他人ニ售ルカ或ハ
 未タ售ラサルモ和約ノ時退讓スルト交還セザ
 ルトノ明文アレハ原主ノ權全滅シテ現ニ之ヲ
 有スル者ニ默讓セシモノトス
 但和約ノ時交還スルト退讓セサルトノ明文
 アレハ之ヲ還サ、ルヲ得ス

第十九款

和約既ニ立タハ即時戦ヲ息ハ可シ若シ遠方ニ
 在ル各隊和約ノ既ニ成ルヲ知ラスレテ戦フ者
 ハ法ヲ犯ストセス只捕ル所ノ貨物ハ之ヲ交還
 スヘシ

第二十款

海上捕得ノ船貨ハ必ス我カ戦利法院ノ審判ヲ
 經テ然ル後之ヲ處分ス可シ

審判官

局外假條例

第一款

凡ノ自主ノ國他國宣戰ノ時ニアタリ之ト從前
ノ盟約限制ナキ者ハ總テ局外ノ全權ヲ守ルヘ

第二款

局外ノ全權ヲ守ル者ノ交戦ニ因ニ於ル事皆中
ヲ守リテ偏ヨラス均平公正ヲ以テ之ヲ待テ一
切其戰事ニ關係スマカラス

第三款

審判官

其交戦二国ニ於ル此國ノ理尚足ルヲ以テ之ヲ
善視シ彼ノ國ノ理或ハ絀スルヲ以テ之ヲ惡視
ス可ラス是ヲ局外ノ全權ト云フ

第四款

交戦ノ國ト嘗テ盟約ヲ成スニ因リ戦事アル時
ニ臨ミ兵下船隻軍器錢糧等ヲ助ケ或ハ戦者ノ
捕スル船隻貨物ノ進港碇泊スルヲ准スアリト
雖モ必シモ視テ局外ノ權ヲ棄絶スルトモ蓋
シ之ヲ局外ノ半權ト云フ

第五款

交戦ノ二國ニ於ル一ハ兵船ノ進ロヲ准シ一ハ
之ヲ准サズ又或ハ二國トモニ之ヲ准スアアリ
是乃テ盟約ノ豫定ニヨリテ然ル者トス

第六款

戦權ハ局外ノ疆内ニ行フベカラス故ニ其地ニ
據リ兵馬ヲ操練シ軍艦ヲ装艦スル如キ一切戦
事ニ属スル所業ハ之ヲ致シ許サズ然レドモ
其陸路ヲ假リ通行セントスル時或ハ准レ或ハ
否々皆隨意タルベシ只彼此厚薄スルアハ
カラス

第七款

局外國ノ管轄地海傍火砲ヲ及フ所或ハ江可ハ
灣港口等ニ於テハ戰船並ニ戰牌ヲ領スル商船
等敵ノ船隻貨物ヲ捕拏スルヲ禁スヘシモシ犯
ス者アレバ必スカヲ尽シテ其犯者ヲシラ之ヲ
交還セシムヘシ

第八款

戰艦其海口ニ碇泊スル時ニアタリ小船ヲ大洋
ニ出シ敵ノ船貨ヲ捕拏スルハ害ナキニ似タリ
ト雖モ其實戰艦碇泊ノ威カヲ持シテ之ヲ行フ

者ニ出レバ其捕拏ノ貨物ハ之ヲ交還セシムヘ
シ

第九款

局外ノ地ニ於テ捕拏スルノ貨物ハ捕者固ヨリ
交還スヘシト雖モ必ス其捕拏セラレシ所ノ局
外國ヨリ之ヲ戰國ノ戦利法院ヘ討シ以テ原主
ニ交還スヘシ敵ノ如キハ捕拏ノ理ニ合フト
否トヲ論スル權アルトナシ

第十款

局外ノ權能ク討償交還セシムヘシト雖モ其之

ヲ捕スル者ニ刑罰ヲ加フルヲ得ル

第十一款

交戦國船局外所轄ノ港口ニ停泊シ糧食及ヒ需用ノ物品ヲ買収スルヲ禁ム之ヲ許シ又所捕ノ船隻貨物ヲ賣却スルヲ默許スルモ亦妨ケズ

第十二款

局外ノ國ハ交戦ノ國ト通商スル勝手タルハシト雖モ必ス其常例ニ照スヲ要ス戦時禁物ノ軍器火薬ノ如キハ密賣スルヲ許サズ若シ犯者アラハ戦者ノ捕拏ニ任スヘシ

第十三款

凡ソ局外ノ國々其人民他國ノ兵船ニ投入シ或ハ自國ノ兵丁水手ヲ招集シテ交戦國ノ所用ニ供シ又公命ニヨラバシテ戦船ヲ其國ニ滿ル如キハ皆之ヲ禁ムヘシ

第十四款

其國ノ船隻私力ニ敵國ノ家屋ヲ轉寄シ或ハ兵士將校ヲ載送スルハ禁物ヲ載ルモノト同例ニ見做シ戦者ノ捕拏ニ任スヘシ

第十五款

其國ノ船隻交戦兩國ノ間ニ入リテ軍人ニ欺騙
セラレ或ハ逼勒セテ不得已ニテ其兵士將
校等ヲ運載シテ戦船ノ捕拿ヲ受ケ若シ損失
ルヲ致サハ其之ヲ欺騙逼勒ニシテ國ニ向テ討償
セシハス

第十六款

城地圍困ノ處ニテハ局外國ノ人民敵トシテ
スルヲ禁ス

第十七款

戦者艦隊ノ勢力具足シテ敵國所轄ノ港口ヲ封

閉沮遏スル時其封処ヲ破リ售買スルヲ禁ス

地事系后

待敵條例

第一款

生擒ノ者若シワカ命ニ抗逆不服ナルカ或ハ敵
兵来リ救フテ内應ヲ為サント謀ルアリテ守住
シカタキ者ニ非スニハ決シテ殺スヘカラス投
降ノ者亦同シ

第二款

俘虜ヲ互換スルハ定制タリ然レ兵金ヲ索ヌ
贖ナハシノ或ハ戦果ノ時ニ至リ始メテ贖還ヲ
許スニ亦公法ヲ犯スルセス其互換ノ如キハ兩

也言務局

國隨意ニ章程ヲ定ムベシ

第三款

虜兵ヲ互換スル如キハ使ヲ遣リ敵國ニ駐劄セ
ノラ其事務ヲ辨理セシムレヲ常例トナス若
シ敵國失約ノ罪アルモ刑罰ヲ虜兵ニ加フヘカ
ラス

第四款

戰時敵國ノ人民ハ俱ニ敵視スヘント雖ニ國名
及ヒ其家屬並ニ文官士人婦女孩提農夫工匠高
賈其他各等ノ行業武事ニ屬セサル者ハ公私ノ

論 ナクイツレモ故ケラニ害ヲ加フヘカラス
タ

ダ兵仗ヲ帶シテ交戦シ或ハ交戦除規 探偵間諜
ノ

類ヲ違反スル者ハ此例ニ在ラス

第五款

神廟文職ノ公廨^{トクシヨ}学校書房博物館及ヒ奇異ノ名
物等ハ殘破スベカラズ

第六款

敵國ノ民家ヲ燒燬スルハ嚴禁スル所タリト雖
モ若シ敵兵ヲ截住スル軍ハガレガ為メカ或ハ
敵城ヲ攻ムルニ路ヲキ時ハコレヲ為スモ

公法ヲ犯ストセス然レニ是ハ万々已ムヲ得サ
ルニ出テ、実ハ交戦條規ノ禁スル所ナレハ深
ク慎ムヘキナリ

第七款

敵ノ地方ヲ征服シ約ヲ立テ、我カ属邦ト為ス
ト雖モ民ノ田産植物ヲ_{田宅}將テ持主ヲ變ユル
ヲ得ス唯其アラユル公地公物ハ皆テ我カ有ニ
歸シ民間私産ノ如キハ其年租税銀ヲ徴スルノ
ニ此外一モ改易スル所アルベカラズ

捕拏條例

第一款

物品敵國ノ官ニ屬スルモノハ捕拏シテ戦利ト

ナスベシ軍器兵械船艦倉庫軍需公有ノ貨幣

ナスベシ官地ノ山林金坑稅入產物或ハ壘堡諸

但シ神廟文職ノ公廨學校書庫傳物館中ニ在

ル物品ハ此例ニ在ラス

第二款

敵國人民ノ所有物ハ陸地ニ於テ之ヲ捕拏スベ

カラズ器什財宝田宅等ヲ指シテ私物トス

但シ戰場ハ此例ニ在ラス

第三款

敵國ノ船隻貨物其海口ニ在ルモノハ持主ノ官ニ係ルト民ニ屬スルトヲ論ヒズ皆捕拏スベシ但シ已ニ陸揚セシ民貨ハ此例ニ在ラス

第四款

凡ソ海上ニ在ル敵國ノ物品ハ官民ノ別ナク均シク捕拏スルノ例トス

但シ局外ノ地ヲ距ル英法三里即チ我カ四十四間以内ノ海上ニ於テハ敵國ノ船隻貨物ト雖

モ捕拏スベカラズ

第五款

凡ソ敵貨我カ疆内ニ在ルモノト局外ノ地ニ在ルモノトハ捕拏スベカラズ

第六款

我カ人民敵國ニ在テ商社ヲ設ケ或ハ彼レカ商會ニ加入セシ者トモ我ヨリ違シタル引取日限ニ後レテ猶ホ敵地ヲ離レサル者ハ其貨物ヲ没収スベシ

但シ宣戦後之ニ関行セシ者ノ貨物モ同漸

第七款

凡ソ船ハ旗号ヲ以テ名ヲ得ル故ニ敵國ノ旗号
ヲ掲ケテ航海スル者ハ假令其船ハ局外ノ有
係ルト雖モ捕拏シテ戦利トナスベシ
但シ其貨物戦前ノ装載ニ係ラバ貨物ハ貨主
ニ交還スヘシ

第八款

局外ノ船戦時ノ禁物軍器火薬ノ類ヲ載セテ敵
國ニ赴カントスルモノ其禁物ハ捕拏スヘシ
禁物 大砲、臼砲、火器、短銃、爆丹、榴彈、實彈、小銃
彈、燧石、銃、燧石、火繩、火藥、硝石、硫磺、砲、鎗、銃、帶、馬

騎兵用ノ物品 軍艦其他直用品
艦艇用ノ物品 製造ノ物品

但シ已ニ賣渡シテ其代價ニ受取リシモノハ
此例ニ在ラス

第九款

敵國ノ貨物ハ局外ノ船ニ在リト雖モ捕拏シテ
妨ケストス

第十款

局外ノ船敵國ノタメニ軍機ニ関スル便リヲ通
カル者ハ其船ト信書ト俱ニ捕拏スヘシ兵船ヲ
載スルモ亦同

但シ外國ニ駐劄スル敵國ノ使臣ヨリ其本國
ヘ寄ル書信ハ此例ニ在ラズ

第十一款

司外ノ船ニ在ル禁物戰時ノ禁物ヲ云フト船ト持
ナレハ禁物ハ固ヨリ捕拏スヘシ其他若シ敵貨
ニ係ラハ亦同シ若シ載スル所ノ禁物ト船ト持
主一人タルモノヤ或ハ船切手ハ他ニ往ニ段托
シテ其貨ハ敵國ニ赴ク者等ハ船貨均シク捕拏
スベシ

第十二款

若シ同盟國現ニ條約戰時禁物ヲ敵國ニ賣
買ス可カラスト有
有シ而シテ陰カニ禁物ヲ敵國ニ運送スルハ
船ヲ俟セテ捕拏スベシ

第十三款

司外ノ船封港ノ地ニ至リ強テ進口セント謀ラ
ハ其貨物ハ捕拏スベシ

第十四款

司外ノ船空身ニテ封港ヲ出ニ其近傍ニ停泊
別ニ他ノ小舟ヲ以テ内河ヨリ中継シ支道細流
ニ沿ヒ下シテ貨物ヲ裝載スルモノハ其貨物ハ

撃スベシ

第十五款

弓外ノ船稽查

禁物ヲ載
賣スルヲ

否ヲ
云フ

稽
ニ

服
セ

スル所ノ貨物ヲ捕撃スベシ

第十六款

敵人ノ地基房屋我カ疆内ニ在ルハ捕撃スベカ

ラズ唯其私租佃産ハ暫ク封守シテ敵國ニ送ラ

サルヲ例トス

第十七款

敵國ノ民ヨリ負セタル債欠ハ欠者ノ居

ニ論
ナク皆ナ捕撃スベカラズ

第十八款

我カ人民戦前敵國ニテ貨物ヲ買ヒ置キ

年ノ久キニ及フ後ニ始テ本國へ運回スル者ハ

其貨物ヲ捕撃スベシ

第十九款

我カ人民戦時敵國ノ牌照ヲ領シ敵國ノ一或

ハ局外ノ國ニ往テ貿易スル者ハ其貨物ヲ捕撃

スベシ

第二十款

兩國交戦之地ニ於テモ、約ヲ立テ、我が属
邦トナスト雖、其民ノ田宅ハ捕拏スルヲ得ハ
カラズ

第二十一款

船艦及ヒ造船木料且船上所用ノ物モ亦戦時ノ
禁物ニ属ス故ニ若シ弓外ノ船將テ敵國ニ進マ
ントセバ捕拏シテ妨ケズトス

第二十二款

我カ疆内ニ在ル敵民ノ貨物房屋捕拏
ザルハ常例タリト雖モ若シ敵國我カ

ス一之ト相反スレハ我亦彼レニ照シテ其事ヲ
行ハシ

第二十三款

陸地ノ捕物ハ一晝夜ヲ経ルカ或ハ我カ師ノ營
星ニ持込タルナラバ原主討還ノ推ナシトス海
上ノ捕物ハ必ス戦利法院ノ審断ヲ経テ我カ有
ニ歸スルト否トシテ定ムベシ

第二十四款

弓外ノ船ニ裝在スル敵貨並禁物ヲ捕拏スルニ
方リテ貨主船主トシテ紛議ヲ生シ容易ニ貨物

ヲ渡サシムル時ハ其船ヲモ共ニ引テ戦利法院ニ
詣リテ決テ取ルベシ

第二十五款

我カ公使領事若シクハ將官税関及ヒ持ル權
ヲ有セル官負ヨリ渡シタル護票ヲ所持スル者
ノ貨物ハ持主ノ我民ト敵民トニ論ナク皆捕拏
スルヲ得ス

查船仮條例

第一款

查船ノ權ハ唯帝國ノ兵船ニノミ准ルモ昔トス
民船ハ兵照ヲ領スルト雖モ之ヲ行フコトヲ得ヌ
但捕拏ス可キ船ノ如キハ之ヲ戦利法院ニ送
致ス可シ

第二款

大海上ニ於テ局外ノ船ニ遇ハ、立時其船ヲ裁
止シテ之ニ登リ禁物ヲ載スルカ敵貨ヲ裝ムル
カ或ハ敵國ノ為メニ書札ヲ密遞スルカ又ハ兵

卒ヲ隠シスルカ此等ノ件々ヲ精細ニ稽査ス可
シ

但司外ノ公船ハ何処ニ在リモ稽査スルヲ得
ス

第三款

司外ノ君ト戰國ノ君ト相議シテ特ニ章程ヲ立
テ、兵船ヲ以テ保護スルノ商船於テハ聊モ
司外國ノ權利ヲ行フベキトマ又ハ文國ニ對シ
義務ノ不合ナキニ由リ稽査スルヲ待ズルノ約
款ヲ定メタル如キハ固リ不可ナシ然モ司

外ノ君強テ之ヲ戰國ノ君ニ行ハシムル權ナキ
モノトス

第四款

司外ノ船強ク恃ミ抵禦シテ稽査スルヲ許サハ
ルカ或ハ敢テ交戦スル等ニ至テハ禁物敵貨ハ
勿論一切所載ノ物品ヲ捕拏シテ戦利トナスハ
古今ノ常例ナリ然モ文誼公益ノ為メ暫ク權宜
ニ從ヒ即時没收セサルトモアルベシ

第五款

護洋ノ公若シ稽査ヲ拒マハ其保守ヲ受ケシ商

船モ亦ヨリテ其マラ分ツ可クシテ一同戦利トナルヲ免レズ

但護洋ノ船若シ敵人ナレハ強禦ノマテリモ載スル所ノ局外ノ貨物ハ其罪ヲ連及ス可カラズ

停兵仮條例

第一款

彼我停兵ノ約ヲ立テ、各々地方ヲ占メ其兵ヲ停ムルニ或ハ日數ヲ多クシ或ハ期限ナクシテ其形千略ボ和ニ似テ而メ中ニ戰意ヲ含ム者之ヲ全停ト称ス

但全停ノ權ハ將帥タルモ擅ニ自ラ擬定スルヲ得ス必其国特授ノ命ヲ稟テ而メ後ニ之ヲ為スヲ得ヘシ

第二款

一方ヲ阻定シ暫持兵ヲ停メテ相攻撃セザルヲ
特停ト称ス

但特停ノ議ハ兩國ノ將帥特派ノ権ナシト雖
モ之ヲ定立スルヲ得ベシ

第三款

停兵ノ布告未タ民間ニ遍カラザル内ハ他處ニ
當在セル兵卒約面ト齟齬スルノ所業アリト法
ヲ犯ストセス及令攻撃スルト亦背約ノ責ナキ
モノトス

但知テ故ラニ犯ス者ハ此例ニ在ラス

第四款

海上ニ至リテハ兵ヲ停ムルノ後倘シ約ニ違
誤テ敵船ヲ捕フルアラハ其国必ス之ヲ交還ス
可シ

第五款

停兵ノ約面ニ限ル所ノ日期ハ大抵地方ノ遠近
ヲ視テ定ムルヲ恒例トス
但日期ハ何日ヨリ何日迄ト確乎ト條款ニ掲
載シテ曖昧ナラザルヲ要ス

第六款

停兵ノ時双方ノ持場ヤ又ハ款上ニ限り置キタル
ル境内ニテ諸事ヲ施行スルハ平時ト同様ニシ
テ砲臺ヲ修理シ兵ヲ調シ士ヲ募シ軍糧ヲ運輸
シ戎器ヲ製造シ友國ノ援師ヲ迎フル等總テ
争ノ豫備ヲ為スラ妨ケズ

但困ノ際停兵ヲ口實トシ彼レカ既ニ截住
セシ要路ヲ經テ我カ陣營ヘ糧草ヲ運輸シ或
ハ援兵ヲ誘入スルヲ得ス

第七款

停兵ノ主旨ハ和好ノ全ク成リシニ非ス故ニ闘

争ノ地方ニ於テハ百事有形ヲ保存シ變易ス
可カラズ

第八款

停兵ノ日期既ニ滿テ復戦フキハ別ニ宣告ヲ用
ヒズ

第九款

若シ停兵ノ期ヲ定メズ或ハ之ヲ定ルル其日
長久ナレバ再戦ノ時必ズ敵國へ通知ス可シ

第十款

停兵期限未タ滿タザルノ前忽チ交戦ノ議ヲ興

ス者ハ討償ヲナスモ苦シカラス

海軍省

封港仮條例

第一款

凡ソ封港ハ我艦隊實勢ノ威カヲ以テ港口ヲ封
閉シ局外國前進ノ船舶ヲ沮遏スベシ

但シ實勢ナクシテ徒ニ揭示照牌等ヲノミ特
ニトスルモノハ封港ト為スヘカラス

第二款

明告シテ封スルモノハ弛封ノ時モ亦速ニ明告
スヘシ

第三款

海軍省

其告ズシテ封ヤシ
来ルアラバ我ヨリ已ニ封ヤシ旨ヲ訖示シ轉ジ
テ他ニ在カシムバシ若シ強テ封處ヲ犯サント
スルアラバ船貨一併捕拿スヘシ

第四款

封港ヲ知ラズシテ入口スル局外船アラハ所載
ノ貨物ニ戰時禁物禁物ハ戰時心符
假條例ニ詳ナリ無ヤ否ヲ替
查シ若シアラハ之ヲ捕拏シ其餘ハ常ニ照シ他
ニ往ニマカスベシ

第五款

38

大風高浪アル一ヨリテ我ガ守港ノ舟飄蕩シテ
海ニ出テハ暫時其處ニアラサルモ封ヲ弛ハル
トセス局外者若シ變ニ乘シ勢ヲ以テ封ヲ破ル
モノアラハ之ヲ捕拏スベシ

但シ局外国ノ船風浪ノ難ヲ避ケ馳テ封處ニ
入ルモノハ犯法トスベカラズ其破損スルニ
因リ修覆ヲ加ヘ並ニ食料需用ノ品ヲ買入
ルモノ之ヲ禁ヤズ

第六款

封港ヲ告明スルノ
艦隊
為ニ打破ラズ

即時再封スレテ
スラ得ズ蓋シ一
度軍破ルレバ前
布ニ告示ハ廢
紙トシ更ニ再度
告明ラ要ス然ル
後ニ犯ス者ハ捕
拏シテ許スナシ

第七款

局外船封港内ニ碇泊シテ我事實ヲ審知シ或ハ
既ニ我告明ラ受ケシ者ハ敵人ト賣買スルヲ嚴
禁ス若シ犯ス者ハ之ヲ捕拿スベシ

第八款

局外船封港ノ前日入口ニテ敵人ハ一品ニ售

39

賣セシトナク其
往カントスル者ハ其証據確實ナラバ出コ
スベシ

第九款

局外人空船ヲ以テ封ロヲ出ル者ハ替查シテ其
出ルニ依スヘシ

第十款

局外人到處ノ裏
轉ジテ別ニ各
仕スベシ

地務局

但シ空船ニ
河或ハ陸路ヨリ貨物ヲ運搬シ小舟ニテハ船
ヘ積込モノハ捕拿スベシ

第十一款

局外人貨物ヲ船隻ニ裝載シテ封ロヲ出ントス
ル者ハ其裝載ノ月日ヲ審覈シ其裝載封港以前
ニカ、ルモノハ出口ヲ許スベシ
但シ局外人敵ヲ助ケテ貨物ヲ運シ外ニ出
ントスル者ハ捕拿スヘシ

第十二款

既ニ封港ヲ弛解スル後ハ注日封ロノ事ハ更
ニ詮議セザルモノトス

第十三款

局外ノ公船ハ警査ヲ須ヒス其出入ニ任スヘシ

第十四款

局外ノ郵船ハ警査シテ出入ヲ許スヘシ
但所載中禁物アラハ禁物ノミヲ捕拿ス

い40

抵償仮條例償第一條三項第十款マテ、戦前ノ強
係償ルニ
係ルニ

い41

第一款

此國ノ償ヲ彼國ニ討メテ彼國之ヲ償ハサレニ
因リ餘義ナク他ノ策ヲ立テ、終ニ己レノ冤屈
ヲ伸フルヲ強償ト云而メ強償ニ内外渾特ノ別
アリ

第二款

冤屈ヲ受ケタメ、為テ二約ト行フヘキ條款ヲ行
ハスシテ抵償ノ討メ或ハ二約ト行フヘキ力平

地事務局

地事務局

常行ハ得ヘキ様ヲ一テ行フハ河カラシメ以テ
抵償ヲナサシムル如キ之レヲ内ト謂フ

第三款

彼國ノ人口貨物ヲ捕拏シテ彼レノ抵償ニ償
ル如キ之ヲ外ト謂フ

第四款

此國既ニ冤屈ヲ受ケ臣民ニ牌照ヲ給シ何處ヲ
論スルナク彼國ノ人口貨物ヲ捕拏シテ彼レニ
我力戰勢ノ威アルヲ視シテ抵償ヲ行ハシムル
之ヲ渾ト謂フ

第五款

和好中偶我人民ニ彼レノ冤抑ヲ受ル者アレ
ハ之ニ牌照ヲ給シテ其者躬ラ彼力貨物ヲ捕拏
シ抵償トナスヲ准ルス之ヲ持ト謂フ

但シ此牌照ハ彼國頭然欺侮抑壓ノ事情アル
ニ因リ屢ハ彼ニ訴フルモ彼敢テ之ヲ明白ニ
審判セザル時始メテ給與スヘキモノニシテ
而シテ其權ハ国君ニ在リ為ス

第六款

我ニ屈辱ヲ與ヘシ国ノ船貨我疆内ニ在ル者

海軍事務局

ハ之ヲ拘留封守シテ以テ抵償ヲ行ハシムルモ
妨ナシトス

第七款

彼ノ国前キニ我國ニ不足ヲ行ナレシヲ補ハシ
ムル為メニ其人民ノ財物ヲ捕拏スルモ妨ケナ
シトス

但彼己ニ抵償セハ捕スル所ノ民物ハ交還ス
ヘシ

第八款

凡ソ強償ヲ行フニ罪ヲ負フノ国猶ホ抵償ヲ願

ハサル時ハ師ヲ出スニ名アリ武ヲ黷スナサ
ス

第九款

若シ彼国曾テ此国ノ財貨産業ヲ占メ或ハ品物
ヲ還サス又ハ代償ヲ償ハサル等ノ一アラハ師
ヲ受ル者彼国ノ物品ヲ押へ置キ後々彼ヨリ償
ヲ出サハ其時並ノ損害ヲ補フニ足ル程ノ費用
ヲ償ハシムルモ妨ケナシトス

但シ彼レ之ヲ償フ迄ハ之ヲ質物トシ或ハ已
ノ用ニ立ツレモ害ナシト虽トモ倘シ後ニ論

議ヲ生セン等ノ恐レアル時ハ必ス其ノ終ニ存在シ用ヒサルヘシ

第十款 以上戦前ノ強償

兩國若シ交兵ニ及ハ、戦前ニ捕拏シ抵償トスル所ノ物品ハ更ニ没收ス可シ

但シ交戦ニ及ハスト虽モ彼決シテ交還ヲ望ムノ念ナキ時ハ亦没收スルモ妨ケナシトス

第十一款 以下戦時ノ抵償

此國若シ彼國ヨリ害ヲ受ルアラハ其民貨ヲ捕

ヘテ受ケタル害ヲ償ハシム可キノミナラス彼國ニ永住スル他國ノ民貨或ハ他國ノ使臣敵國ニ在ル者ノ貨物ハ亦之レヲ捕ヘテ抵償トナスヘシ

但シ彼國ノ償負及ヒ彼國ヨリ遣来リシ使臣花ニ其貨物或ハ他國ノ民暫時彼國ニ居留スルモノ、物品ハ妄拏シテ抵償トナス可カラズ

第十二款

此國ノ人民彼國ニ遷居シ久シク彼民ト同シク

通商ノ利ヲ享ル者若シ戦ニ過ハ、彼民ト同視
シテ其家賞ヲ抵償トナスニ妨ケストス

舊地事考

和約假條例

第一款

自主ノ國交戦ノ後和約ヲ定立スルノ大権ハ
主ニアリト雖モ土地分譲ノ推ハアルトナシ
地ヲ分譲スルト國議ノ決ヲ經ニアラサレハ
行スルヲ得ヘカラス

第二款

彼我交戦ノ後和約已ニ成リ土地ヲ退讓スルニ
當リ戦時民産ヲ毀壞スル其害深重ト雖モ固ヨ
リ國力ノ累負ニ任スバキニテ故其受害者

舊地事務局

ニ對シ必スレモ賠償セズ

第三款

約既ニ定ルノ後事皆和好ヲ主トシ本来啓衅ノ事故ハ一切消除シテ彼我曲直ノ論ヲ保持セザレ可ク且戰時曾行ノテ等ヲ覆索シテ更ニ爭端ヲ起スヤカラス

第四款

和約條款ノ定ルノ時ニアタリ初ノ戰爭ノ啓ク彼我其理ノ是非曲直ヲ詳細ニ剖明スルヲ要ス否ラザレハ兩國人民降心甘服シテ和約ヲ遵

守スルヲテセズ恐ラクハ後來魚量ノ論ヲ生スルヲ免レサルベシ然リト雖モ堅ク其是非ノ論ヲ持シ因以テ爭ヲ興シ事ヲ肇ルニ至ルベシト謂ニハアラザル也

第五款

戰前彼此ノ欠債ハ和約條款中ニ辨理明晰スルヲナクハ隨後理論ヲ行ヒ討償ヲ要スルヲ妨ケス

第六款

勝者攻畧ノ地方ハ暫用ノ權ヲ執ルト雖モ和約

藩地事務局

條款中或ハ退讓ヲ明言シ或ハ交還ス言ハサレ
ハ前君ノ推ハ全ク滅シ再ヒ相争較スルコトヲ得
ズ

第七款

約中攻畧ノ地方ヲ交還スルコトヲ許諾スレハ勝
者管轄ノ權ハ暫守暫用ノモノトス

第八款

勝者暫用ノ權轉シテ他人ニ授クルヲ得スト雖
モモシ畧取ノ土地民物等ヲ已ニ他人ニ賣與シ
然ル後約中其土地勝者ニ退讓スルノ明文アル

ハ民物モ原有人ニ交還スルニ及ハズ買者其權
有リトス

第九款

動物ヲ捕斃スル已ニ一晝夜ヲ經レハ即已レ
有トナリ原主討還スルヲ得ズ復和ノ後ト雖モ
捕者ノ戦利トナシ交還ヲ要セス

第十款

和約條款中戦時捕斃ノ物品處分注明スル魚レ
ハ万事其和時ノ地歩ヲ守リ所捕ノ貨物ハ其現
有者ニ默讓セシモノトス

第十一款

復原ノ例ハ全ク戦時ニノミアルモノトス故ニ
戦者其捕拏物品ヲ局外人ニ賣典スルモ其後和
ノ日ニ及ンテハ原主再討スルヲ得ス之ヲ買フ
者ノ権之ヲ捕スル者ト異ナルヲナシ

第十二款

和議已ニ定リ約書鈐印ノ後彼我兩國一切其章程
ヲ遵守スヘキハ勿論ナリト雖モ若遠地ニアル
ノ戦者和約ノ已ニ成ルヲ知ラズシテ塵戦残害ハ
ルヲアルモ是ヲ犯法ト為シテ刑ヲ加フベカラ

ズ但其捕拏ノ貨物ハ必ス之ヲ交還スベシ

第十三款

條款ヲ特立シ某ノ地方ヲ以テ戦外トナスヲ約
スレハ豫メ先ツ其民ニ曉諭シ其事ヲ告知スベ
シ若軍人不知シテ其戦外ノ地ヲ犯スモノアレ
バ則チ其政府其咎ニ任シ其損害ヲ賠償スベシ
但其損害ヲ討償スルニ當リ日期久遠ナル者
ハ裁判ニ及ハス

第十四款

和約畧定シ未タ一般ニ告知セサル前其情ヲ知

リテ仍敢テ敵國ノ船隻貨物ヲ捕拏スルアレハ
未タ息戰ノ日期ニ至ラサルモ其捕物ハ一切是
ヲ交還スベシ

第十五款

和約ヲ立ルノ時ニ臨ニ既ニ捕獲ノ船隻貨物等
ニ言ノ及ブナクハ未タ法官ノ審断ヲ經サルモ
之ヲ其捕者ニ屬シテ失者ノ救還ヲ禁スヘシ

第十六款

約上若シ畧取ノ物品ヲ交還スルコトヲ許サハ必
ス其捕時ノ形状ヲ照シテ之ヲ還スヘシ然レト

モ時ヲ經ルノセニ久シキ頃滅スルヲ致スカ或
ハ不得已ノ害ニ逢テ毀壞スルアルモ原制ヲ損
照セス其現形ヲ以テ交還スヘシ

第十七款

和約已ニ定リ物件交還ノ日期未タ至ラス其間
戰機ヲ得タリト謂テ之ニ乘シ故サテ砲臺ヲ拆
毀シ地方ヲ焚掠スルハ信ヲ失ヒ理ニ悖レト為
ス之ヲ嚴禁スベシ

第十八款

勝者其畧取スル所ノ砲臺ヲ修理スルコト有ト雖

七番地事考
モ復和ノ日ニ及ニテハ現形ニ依テ之ヲ交還シ
敢テ残毀セザルベシ

但勝者營壘砲臺等ヲ新規建築セシ分ハ自
ニ毀拆スルモ妨ケズト雖モ豫メ他日ノ紛
ヲ塞カン為メ約款中ニ明載スルヲ要ス

第十九款

和約已ニ了シ其中一款ニ悖ルコトアレハ全約堅
固ナラストス故約中豫メ一款ニ悖ルアリト
モ全約ニ関涉ナキコトヲ特約シテ餘地ヲ留
シ

但受屈者和ヲ棄ルヲ欲ニサルナラハ仍全約
ヲ固守シ悖約ノ分ノミ直理討償スルヲ亦妨
ケナシトス

第二十款

若シ結約ノ堅固ナラザルコトヲ疑慮スルアラハ
此一國友邦ニ調處ヲ請フトモ又ハ彼此兩國友
邦ニ理断ヲ乞フトモ總テ妨ケズトス

雜例

第一款

兩國事ニ由リ互ニ債欠アリテ戦争ニ遇ヘハ暫ク置テ取立テス和約ノ時ヲ俟テ請取ベキモノトス

第二款

敵国ノ民我カ疆内ニ在ル者アラハ宣戦ノ始日期ヲ限リ貨物ヲ收拾シテ疆ヲ出テシムベシ若シ期ヲ過キテ滞在セハ即チ敵ヲ以テ待スベシ只兵仗ヲ帶スルノ敵ト同視スベカラサル

第三款

撃破シテ敵境ニ入ルニ至テハ其民ヨリテ軍費ヲ損輸セシムルモ例ニ悖ルトモス

第四款

既ニ宣戦スルノ後兩國ノ人民相視テ讎敵トシテハ戦例タリト虽モ兵負ニ非スシテ之ヲ敵トシ害スルヲ嚴禁ス蓋シ本国ノ令アリテ敵ヲ害セシムル如キハ其令ノ明ト黙トヲ論セス固ヨリカラ弼シテ之ヲ害スベシ

但シ敵人来攻スルニ方ク我カ人民自己ヲ護

スル為メ敵ヲ害スルハ例ニ違フトモセス

第五款

民船戦牌ヲ領スルモノハ皆以テ敵貨ヲ捕拏スルヲ得ベシ

第六款

水戦ノ例独リ民船戦牌ノ領スル者ノモナラス其戦牌ヲ領セザル者ト雖モ海上ニ於テハ敵貨ヲ捕拏スルヲ常トス但其捕スル所ノ貨物ハ公ニ没收スベクシテ已レカ用ニ供スルヲ得ス

第七款

戦者占據ノ地方公地公物ヲ以テ官ニ没スル者ハ定約ノ時必ス條則ヲ立テ、之ニ一箇キスベシ若シ之カ條則ヲ立ズ敵国亦退讓ノ言ナクハ復原スベキ者トナス

但シ六アリテ先キニ此等ノ田圃房屋ヲ購行スルアリトモ其地原主ニ歸スレバ買フ者此ニ據ルヲ得ス

第八款

海上ニテ捕拏セシ敵貨彼若シ金ヲ出シテ贖由セシトテハ、日限並ニ前往ノ地名ヲ明記シ

タル護貨票ヲ與ヘ放回スル有ルベシ其共票ノ権固ヨリ君上ニ在リト虽氏特授ノ權ヲ有セシ將帥或ハ高等ノ文官職モ亦之ヲ與フヲ得ベシ但シ兵船亦護票ヲ出スヲ得ベシ蓋其国投クルニ浦拏ノ権ヲ以テスレハナリ

第九款

戦権ノ行ハル、處三アリ戦国ノ疆内海上無王地是ナリ此三者ノ外ハ戦権ノ行フヲ得ス

第十款

局外者管轄砲丸ノ多ク所ノ處

即チ我カ四丁四十三間

管轄

ニ於テ戰船敵國ノ船隻貨物ヲ捕拏スルヲ
且ツ其港口ニ停泊シテ以テ征戰ノ地
即チ捕拏ルカヲ如キ是ナリ又ハ局外ノ地ヲ借リ以
テ交戰ノ用ニ便スルハ總テ嚴禁スル所トス
但シ戰船局外ノ地ニ進ミ糧草需用ノ物禁外
ヲ買フハ此例ニ非ス

第十一款

局外ノ旗ヲ用ヒテ敵國ノ貨ヲ護スルヲ得ス又
戰者ノ旗アリト虽モ局外ノ貨ヲシテ托シテ敵
貨トナサシムルヲ得ス

第十二款

貨物ニ三等アリ專ラ戰用ニ應スルモノ一ナリ
戰用ニ應セサルモノ二ナリ戰時平時俱ニ用フ
ベキモノ三ナリ其一等ノ貨ハ局外者之ヲ敵ニ
販賣スルヲ禁ス二等ノ貨ハ皆テ敵ニ販賣
ルヲ許ス第三等ノ貨ハ即チ銀錢糧艸船隻等ノ
類或ハ許シ或ハ禁ス必ズ特勢ヲ視テ勿後
バシ木料及ヒ船主所同ノ物ハ蓋シテ
需メタレバ以テ禁物トナス糧飼ノ
ハ若シ困困ノ城池ニ於ル轉運接濟ス

第十三款

戦者交戦ノ處ニ在テ倘シ彼此使臣
ニ出テシメントセハ似ニ其人ヲ、
ツベシ但シ使臣既ニ局外ノ地ニ至リ其
接ヲ受クレバ捕フベカラズ

第十四款

戦時兩國ノ人民往来交易スルヲ許サス然レモ
通商大ニ裨益アルカ為メニ或ハ全ク准ルシ或
ハ物品ニ限リテ立テ、准スモノ、バ
リ或ハ全禁
シテ一物ヲ通セサラシムルモノアリ全禁一物

ヲ通ゼサルハ經ナリ餘ハ明テ權ナレハ半戦半
和トス

第十五款

以下審断ノトニ係ル捕
撃條例ト參者ス可シ

戦利法院ハ萬国公法ニ憑テ行フ故ニ本国別国
ノ別ナシ地方ノ法堂ハ其国ノ律法ニ據ル故
戦利法院ト異ナルモノトス

第十六款

海上捕物ノ可否ヲ定ムルハ本國法
テ仮令領事等ノ官命ヲ奉シテ外国
トモ之ヲ審断スルノ權ナシ

第十七款

海上捕拏スル所ノ貨物ハ貨主局外
虽氏亦必ス戦国法院ニ審案ニ任ルハ
拏ノ例ニ合フト否トハ唯戦国ノ法院
權ヲ有スルノモ

第十八款

凡ソ人本国ノ權ヲ借り戦時船隻貨物ヲ捕
レハ其本国固ヨリ其事ヲ專司シテ可
否ヲ定ムベシ必シモ別国ニ問ハス然レモ
限制スル所ノ者ニアリ一ハ捕ヘテ局外
ノ地ニ在ル者一ハ局

外ノ地ニ在テ船ヲ備ヘテ捕フ者此二事ハ該地
ノ法院其事ノ例ニ合スルト否トヲ斷ス可キ權
アリ若シ合セサレハ其船貨ヲ以テ原主ニ還ス
己カ民ニ係ルト友国ノ民ニ係ルトニ論ナキナ
リ

第十九款

局外ノ境ニ在テ敵貨ヲ捕得スレハ捕者固ヨリ
交還スヘシ然レモ必ズ其局外ノ國
俟テ始テ原主ニ交還スルヲ例トス
ハ自ラ来テ其捕拏ノ例ニ合スルヤ否ヲ問フノ

権ナシ

第二十款

局外ノ旗敵国ノ貨ヲ獲スル能ハス戦者ノ旗局外ノ貨ヲシテ爰シテ敵貨トナラシムル能ハス

第二十一款

敵人捕ル所ノ我カ人民ノ船隻貨物ヲ我カ兵ニレラ奪回セハ其原主ニ還スヘシ唯捕魚戯玩ノ船ハ此例ニ非ス

第二十二款

邇来ノ海法捕者能ク一昼夜ノ久キヲ堅守スレ

ハ其貨嘗墨ニ進マスト虽死己ニ主権ヲ絶ツモ
トトス

Blank manuscript page with vertical blue lines and a blue border. Faint vertical text is visible on the left edge.

Blank manuscript page with vertical blue lines and a blue border. Faint vertical text is visible on the right edge.

目錄

一 內國人戰時心得

一 居留支那人處置條例 附護身護貨票

一 戰時心得

一 局外條例

一 待敵條例

一 捕拏條例

一 查船條例

一 封港條例

一 停兵條例

和約條例

一 雜例

以上十二篇大要之ヲ(ホエ)ト(ニ)ケ(ニ)ト(ニ)氏ノ萬國公法ニ基キ其内事疑案ニ涉リ或ハ彼我國憲ノ同シカラザル者ハ之ヲ法律學士ヒル氏ニ質シ或ハ抄譯スル所ノ一千八百七十年佛國志ニ參シ以テ編述スル所ニ係ルト云爾

大藏省八等出仕大音龍太郎

同識

大藏省八等出仕金田清風

戰時内國人民心得書

一 敵國人民ト交易往來不相成事

但特許ヲ與フル者ハ此限ニ在ラズ

一 敵國ヲ除ノ外同盟各國ト通商往來總テ從前

ノ通可相心得事

一 敵國ノ依托ヲ受ケ我國情ヲ内通致シ候儀ハ

嚴禁ノ事

一 敵國人民トノ貸借ハ交戰中取遣可見合事

一 敵貨ヲ申請シ金銀ヲ募リ敵國ニ送ルハ嚴禁

ノ事

一 敵國ニ居留スル人民ハ我公使領事ノ内ヨリ
布令スル日限内貨物取纏歸國可致事

一 歸國ノ時携帶スル所ノ貨物ハ我公使領事ノ
内ヨリ護貨票ヲ可申請事

但時機ニヨリ我將校ヨリ付與候儀モ有之
ベキ事

一 日限内歸装セズ程過ギテ敵地ヲ離ル、者ハ
其貨物ヲ没收可致事

一 日限ニ關シズ依然敵國ニ滞在スル者ハ其地
ノ貨物ヲ没收可致事

一 航海スル者ハ黃龍ノ旗ヲ掲ケシ兵船ヲ見受
候ハ、速ニ避去リ可申事

一 航海中風浪ノ難ニ遇ヒ候トモ敵國ニ立寄マ
シク最寄局外ノ地瑪香ニ相避ケ可申事

一 居留地ニ有之敵國人民ノ殘シ置キシ家屋等
燒毀致スマシキ事

一 軍人ニ非ズシテ敵人ヲ害スルハ嚴禁ノ事
但敵人來犯ノ節自護ヲタメニスル者ハ此

限ニ在ラズ
一 何月何日ヨリ四十日ヲ過キ我國在留免許ノ

鑑札所持無之敵國人民ハ取押ヘ置キ其管轄
廳ヘ可届出事

一 日費ヲ以敵船ヲ捕拿致度者ハ地方廳ヲ経テ
可願出詮議ノ上許可致スベキ事

居留支那人處置條例

第一款

凡ソ支那人我國ニ居留スル者ハ外國人雇入ヲ
除ク外一切居留ヲ禁ジ退去歸國セシムベシ

但外國人雇入ノ者ヲ處分スルハ第九款ニ
照スベシ

第二款

退去ノ期度ハ某月某日
即チ内國ヨリ四十日間
宣裁ノ日
タルベシ

但疾病事故アリテ滿限ニ退去シ難キ者ハ

取留 上更ニ四十日ノ延期ヲ許シ別紙
形ニ照シ護身票ヲ與フベシ

第三款

期限已ニ過ギ猶退去セザル者ハ兵器ヲ帶ヒザ
ル敵ト見做シ其地ノ巡查ヲシテ取締ヲ為サシ
ムベシ

但抵禦セザル者ハ捕縛スベカラズ

第四款

退去ノ節其所有ノ物品ヲ船載スルハ隨意タル
ベシト雖氏該地ノ税關ニ於テ取調ノ上護貨票

ヲ與フベシ

但税關ヨリ下ゲ渡ス護貨票面ニハ必ズ其
箇數ヲ詳記シ與フベシ然ラザレバ我巡洋
船ノ捕拏ヲ免カルコトヲ保スル能ハズ

第五款

退去ノ後其自己營スル所ノ屋房ヲ殘シ置モノ
ハ内民外人ヲ論ゼズ托シテ之ヲ證人ト為シ其
租諸公費ヲ納メシムベシ

但證 川受ナキ屋房ハ區戸長并
他 戎殿スルコトヲ警察スベシ

去限内

リト雖氏密ニ彼國政府

ノ内國事情ヲ探偵スルモノアラバ即時

シテ何分ノ處置ヲ伺出ツベシ

但外國人雇入ノ者タリト雖氏本條ノ所業

アレバ即時捕縛シテ其旨ヲ雇主ヘ申入ル

ベシ

第七款

内國人民ニ關涉スル借貸ハ交戦中ハ其討索ヲ

禁スベシ

第八款

退去限内我國人民ト日需物品ヲ互ニ賣買スル

ハ妨ゲズト雖氏特ニ共ニ相合夥シ賣買スルヲ

ヲ禁ズベシ

第九款

外國人雇入ノ者ハ其雇主ヨリ身許引受證書ヲ

出サシメ其地方長官ヨリ雇主ヲ經テ護身票ヲ

與ヘ居留ヲ許スベシ

但身許引受書体ハ別紙雜形ニ照

方ニ取リ置キ其旨ヲ届ケ出

外國人雇入ノ者外出ノ節ハ必ク護身
シ 巡査等臨時稽査ヲ行フ時ハ其票ヲ取リ

茲示

外國人雇入支那人身許引請證書雛形

清國何州郡縣何地

姓 名

當干支可年

右ノ者何年月日ヨリ拙者雇入置候モノニ相
違無之候向後同人儀日本國ニ對シ不埒ノ筋
不審ノ廉ヲ以官廳ヨリ呼出有之或ハ臨時捕
縛相成候トモ於拙者一言ノ異議無之

年月日

何府在留

何國

香港

身分
何某

何府縣長官名苑

白人雇入支那人 在留中護身票雛形

護身票

朱墨
道宜

何國誰姓名雇人

清國何縣何地

姓名

當于支何年

表

○

木札縱五寸橫三寸

表

引拂日限外。在留ノ支那人護身票雛形

朱墨
通宜

護身票

何國姓名雇人

清國何縣何地

姓名

當干支何年

木札縱五寸橫三寸

表

表書之者某年月日ヨリ何ヶ月在留
免許候事

明治何年何月日

何府縣廳

燒印

裏

表書之者何 鞅病ヲ以テ某年月日
ヨリ更ニ四十日間在留免許候事
明治何年何月日

何府縣廳

燒印

歸國支那人護貨票雛形

護貨票

清國何縣何地

姓名

當于支何年

一 何品 何箇

一 同 同

一 同 同

合何百何拾呂

右者某年月日ヨリ何府縣(寄留今般前書ノ物品攜帶歸國
候ニ付遂稽查候處疑敷儀之候間何月何日本港出帆何港
入向歸航差許候仍テ護貨票如此候也

明治何年何月日

大日本國何港稅關長官印

用紙
程村

敵地ヨリ歸國ス我ガ人民護貨票雛形

護貨票

何府

身分

姓名

當干支何年

一 何品 何箇

一 同 同

一 同 同

合何百何拾品

右ノ者是迄清國何地ニ居留最在候處今般前書ノ物ヲ
携帶歸國ノ旨届出候ニ付稽查之上届候事

明治何年月日

大日本國領事 氏名印

將校

戰時心得

第一款

敵國人民日期ヲ限リ歸國申付クル者ハ開港場
税關ノ長次官ヨリ其國稱名氏及ビ何年月日ヨ
リ我國何府縣ニ寄留本日何港出帆何港へ向テ
歸航スルノ由ト其所持ノ物品トヲ詳明記載セ
ル護貨票ヲ下ゲ與フベシ

第二款

敵國ノ人民ハ均シク敵視スベシト雖モ國君及
ビ其家属並ニ文官士人婦女孩提農夫工匠商賈

其他民間種々ノ營業ニテ武事ニ關セザル者ハ
之ニ殘害ヲ加フベカラズ

但兵仗ヲ帶シ及ビ條規間謀ヲ犯ス者ハ此
限ニ在ラズ

第三款

敬神ノ廟宇文職ノ公廨學堂書房博物館名所舊
蹟及ビ其内ニアル高名ノ物品ハ毀焼ス可ラズ

第四款

戰場ニ在ル貨物ハ公私ヲ論ゼズ一併捕拏シテ
戰利トナスト雖モ民間ノ貨物ハ捕拏ヲ誓シ之

ニ代テ軍費ヲ賄ハシムルモ亦適意タルベシ

第五款

戰場ノ外民間ノ私物ハ一切捕拏スベカラズ

但公物ハ此例ニ在ラズ
公物私物ハ捕拏
條例ニ詳リ

第六款

敵地ヲ鈔略シ或ハ城池ヲ攻撃スルニ方リ附近
ノ村莊等ヲ燒毀スルハ嚴ニ之ヲ禁ズベシ

第七款

生擒者或ハ抗逆シテ服セス或ハ敵ニ内應ヲ為
スニ非レバ決シテ他故ヲ以テ殺戮スベカラズ

但我兵ノ敵人ニ擒セラル、者ト互換シ或
ハ贖還ヲ許ス等ハ皆隨意タルベシ

第八款

敵國ノ使臣局外友邦へ派出セントスル者ヲ見
當ラバ之ヲ捕ヘテ其路ヲ絶ツベシ

但已ニ局外ノ地ニ至リ其禮接ヲ受ケタル
者ハ此限ニ在ラズ

第九款

敵國ノ船隻海上ニ在ル者ハ船貨一併捕拏スベ
シ

但局外國ノ管轄ニ係ル所ニ 英法三里印ヲ
我四十三丁余
在ル者ハ此例ニ在ラズ

第十款

敵國ノ貨物ハ假令局外船ニアリト雖モ之ヲ捕
シテ戦利トナスベシ

但已ニ登岸センモノ及ビ局外ノ地ニ在ル
者ハ此例ニ在ラズ

第十一款

敵國ノ船局外國ノ貨物ヲ載スルアラバ其船ヲ
捕ヘ其貨ヲ交還スベシ

第十二款

局外ノ船取サラニ封港ノ處ヲ犯シ或ハ稽查ヲ強禦スル者ハ其船貨一併捕拏スベシ

第十三款

局外ノ船或ハ敵國ノ為メニ密書ヲ寄セ或ハ敵國ノ兵ヲ載スル等ノ丁アラバ稽查シテ其船ヲ捕フベシ

第十四款

局外ノ船禁物捕拏條例ヲ載セ敵國へ赴ク者ハ稽查ヲ遂ゲ船貨同主ナレバ均シク禁物ト共ニ

捕拏スベシ若シ船貨異主ナレバ船中ニアル禁物ト敵貨トヲ捕拏スベシ假令船貨異主ナリモ船照ヲ贋造シ詞ヲ他往ニ託スル者後查出ニ及ブカ又ハ友邦約ニ背キ私ニ禁物ヲ搬運スル者ハ船貨一併捕拏スベシ

但禁物ヲ敵ニ售リ渡シ其後得ル所ノ金銭ヲ載セル者ハ此例ニ在ラズ

第十五款

我人民敵國ニ在リ宣戦ノ後猶歸リ来ラザル者ハ其貨物ヲ没收スベシト雖モ若シ遠方ニ客行

審判官

スルガ為メ日期ニ後レテ歸國ヲ乞フ者アレバ
事實ヲ勘査シ我ガ將校ヨリ護貨ノ證票ヲ與ヘ
我ガ兵船ノ捕獲ヲ預防スベシ

第十六款

人民戰情ヲ熟知シ故サラニ敵國ニ到リ貿易
裝貨スル者ハ其船貨一併捕拿スベシ

但特許免狀ヲ所持スル者ハ此例ニ在ラス

第十七款

停兵中襲撃ハ勿論捕拏等ヲ為スヲ許サズ若シ
停兵ノ日限既ニ了リ復戰ノ時ハ別ニ宣告ヲ用

ヒズト雖モ約上日期ヲ定メズ或ハ之ヲ定ルモ
時日長久ナレバ再戰ノ時必ズ敵國ヘ宣告スベ
シ

第十八款

凡ソ捕拏ノ動物ハ二十四時間ヲ過ルカ或ハ營
内ヘ持来ラバ原主ニ交還セザルヲ常例トス其
不動産ハ原主ニ交還スルヲ常例トス然レモ既
ニ他人ニ售ルカ或ハ未ダ售ラザルモ和約ノ時
退讓交還等ノ明文ナケレバ原主ノ權全減シテ
現有者ニ默讓セシモノトス

第十九款

和約已ニ成リ遠方ニ在ル各隊猶未ダ知ラズシテ戦フ者ハ法ヲ犯ストセズ只捕拏スル所ノ貨物ハ交還スベシ

第二十款

海上捕獲ノ船貨ハ必ず我が戦利法院ノ審判ヲ經テ然ル後之ヲ處分スベシ

局外條例

第一款

凡ソ自主ノ國他國宣戦ノ時ニ方リ之ト從前盟約限制ナキ者ハ局外ノ全權ヲ守リ盟約限制アル者ハ其半權ヲ守ルベシ

第二款

局外國ノ交戦二國ニ於ル事皆中ヲ守リテ偏ヨラズ均平公正ヲ以テ之ヲ待シ一切其戦事ニ關係スベカラズ譬ヘバ此國ノ理稍足ルヲ以テ之ヲ善視シ彼ノ國ノ理或ハ絀スルヲ以テ之ヲ惡

視セザル如キ是ヲ局外ノ全權ヲ守ルト謂フ

第三款

局外國曾テ交戰國ト盟約アルニ因テ戰時ニ臨
ミ兵丁船隻軍器錢糧等ヲ助ケ或ハ戰者捕スル
所ノ船隻貨物ヲ進港碇泊ヲ准スアルガ如キ是
ヲ局外ノ半權ヲ守ルト謂フ

第四款

局外國ノ交戰ノ二國ニ於ル盟約ノ豫定ニヨリ
テ一ハ兵船ノ進口ヲ准レ一ハ之ヲ准サズ或ハ
二國トモニ之ヲ准スモ亦妨ゲズ

第五款

局外ノ疆内ニ兵馬ヲ操練シ軍艦ヲ裝艦スル如
キ一切戰事ニ屬スル所業ハ之ヲ許サズ然レモ
其陸路ヲ假リ通行セントスル時或ハ准レ或ハ
否ズ皆隨意タルベシ只彼此厚薄スルヲ下ルベ
カラズ

第六款

局外國ノ海上火砲ノ及ブ所或ハ江河海灣港口
等ニ於テ戰船并ニ戰牌ヲ領スル商船等ヲ以テ
敵ノ船隻貨物ヲ捕拏スルヲ許サズ若シ之ヲ犯

ス者アレバ必ズカヲ盡シテ其獲ル所ノ船貨ヲ
交還セシムベシ

第七款

戰國ノ兵艦局外海口ニ停泊スル時ニアタリ戰
者其兵艦ノ威カヲ恃ミ小船ヲ大洋ニ出シテ敵
ノ船貨ヲ捕拏スルヲ許サズ若シ之ヲ犯ス者ア
レバカメテ其獲ル所ヲ交還セシムベシ

第八款

局外ノ地ニ於テ捕拏スル所ノ貨物ハ捕者固ヨ
リ交還スベシト雖モ必ズ其局外國ヨリ之ヲ戰

國ノ戰利法院ニ討シ以テ原主ニ交還セシムベ
シ

但局外ノ權能ク討償交還セシムト雖モ其
之ヲ捕スル者ニ刑罰ヲ加フルヲ得ズ

第九款

局外所轄ノ港口ニ戰國ノ兵艦停泊シ糧食及ビ
尋常需用ノ物品ヲ買收スルヲアラバ之ヲ許シ
又所捕ノ船隻貨物ヲ賣却スルヲ默許スルモ亦
妨ゲズ

第十款

局外國ハ交戦國ト通商スル勝手タルベシト雖
モ戦時禁物ヲ密賣スルヲ許サズ若シ犯者アリ
ラハ戦者ノ捕拏ニ任ズベシ

第十一款

局外國ノ人民他國ノ兵船ニ投入シ或ハ公命ニ
ヨラズ自國ノ兵丁水手ヲ招集シテ交戦國ノ所
用ニ供スル等ノ所業ハ皆之ヲ許サズ

第十二款

局外國ノ船隻敵國ノ為メニ密書ヲ轉寄シ或ハ
兵士將校ヲ載送スルハ禁物ヲ載スル者ト同例

ニ看做シ戦者ノ捕拏ニ任ズベシ

第十三款

局外國ノ船隻交戦兩國ノ間ニ在テ一國軍人ニ
欺騙セラレ或ハ逼勒セラレ不可已シテ其兵士
將校等ヲ運載シテ一國戦船ニ捕拏セラレ或ハ
之ガ為メ損失アルヲ致サバ其之ヲ欺騙逼勒セ
シ國ニ向テ討償スベシ

第十四款

局外國ノ人民城池圍困ノ處ニ在テ敵人ト售買
スルヲ許サズ

第十五款

局外國ノ船隻戰者艦隊ノ勢力具足シテ敵國所轄ノ港口ヲ封閉沮遏スル時ニアタリ其封處ヲ破リ售買スルヲ許サズ

待敵條例

第一款

凡ソ投降者生擒者ヲ處スルニ其人抗逆不服カ或ハ敵兵来リ救ヲ内應ヲ謀リ守任シガタキ者ニ非ザレバ決シテ屠殺スベカラズ

第二款

凡ソ俘虜ヲ互換スルハ兩國隨意ニ章程ヲ定ムベシト雖氏或ハ直ニ贖還ヲ許シ或ハ戰畢ノ時ヲ待テ贖還ヲ許スモ總テ妨ゲナシ

第三款

凡ノ虜兵ヲ互換スルハ使ヲ敵國ニ遣リ之ヲ辨
セシムベシ若シ敵國失約ノ罪アルモ刑罰ヲ虜
兵ニ加フベカラズ

第四款

凡ソ敵國ノ人民ハ俱ニ敵視スベシト雖モ國君
並ニ其家屬文官士人婦女孩提農夫工匠負販商
賈其他各等ノ行業武事ニ屬セザル者ハ公私ノ
論ナク害ヲ加フベカラズ

第五款

敬神ノ廟宇文職ノ公解學校書房博物館及ヒ奇

品名物等ノ類ハ一切殘破スベカラズ

第六款

凡ソ敵國ノ民家ヲ燒毀スルハ交戰條規ノ嚴禁
スル所ト雖モ若シ敵兵ヲ截住スル能ワザルカ
或ハ敵城ヲ攻ムルニ路ナク萬已ムヲ得ズレテ
之ヲ為スハ妨ゲズ

第七款

凡ソ敵ノ地方ヲ征服シ和約ヲ立テ、我が屬邦
ト為ス時ハ其公地公物ハ皆ナ我が有ニ歸シ民
間私産ノ如キハ其年租税金ヲ徵スルノ外一切

變易スベカラズ

捕拏條例

第一款

凡ソ敵國ノ物品官ニ属スルモノハ捕拏シテ戰

利トナスベシ兵器艦糧貨幣山林金坑及ビ
城壘砲砦等一切官ニ属スルモノ

但敬神廟宇文職公廨學校書庫博物館中ニ

在ル物品ハ此例ニ在ラズ

第二款

凡ソ敵國人民ノ所有物ハ陸地ニ於テハ一切捕

拏スベカラズ什器財寶田産屋房一切
人民ノ私有ニ係ルモノ

但戰場ハ此例ニ在ラズ

第三款

凡ノ敵國ノ船隻貨物其港口海上ニ在ルモノハ
官物民物トヲ論ゼズ皆捕拏スベシ

但已ニ陸揚セシ民貨並ニ局外國ノ地ヲ距
ル英法三里即チ我が四以内ノ海上ニ於テ
ハ敵國ノ船隻貨物ト雖氏捕拏スベカラズ

第四款

凡ノ敵貨我が疆内ニ在ルモノト局外ノ地ニ在
ルモノトハ捕拏スベカラズ

第五款

我が人民敵國ニ在テ商社ヲ設ケ或ハ彼レガ商
會ニ加入セシ者立去日限ヲ過テ猶ホ敵地ヲ離
レザル者ハ其貨物ヲ捕拏スベシ

但宣戦後官許ヲ經ズレテ敵國へ開行セシ
者ノ貨物モ亦捕拏スベシ

第六款

凡ノ敵國ノ旗号ヲ掲ゲテ航海スル者ハ假令其
船ハ局外ノ有ニ係ルト雖氏捕拏シテ戦利トナ
スベシ

但其貨物宣戦前ノ装裁ニ係ラバ貨主ニ交

還スベシ

第七款

凡ソ局外ノ船戰時ノ禁物軍器火藥ノ類ヲ密載
 シテ敵國ニ赴クモノハ稽查シテ其禁物ヲ捕拏
 スベシ
 大砲 臼砲 火器 短銃 爆丹 彈 榴 彈 實 彈 小
 銃 燧石 燧石 火繩 火藥 硝石 硫磺 燒鎗
 鈕帶 馬騎 兵用 物品 軍艦 其他 直ニ 造船ノ
 用ニ 供スベキ 物品 皆是ト 禁物トス

但已ニ賣渡シテ其代價ニ受取タル金銀ハ
 此限ニ在ラズ

第八款

敵國ノ貨物ハ局外ノ船ニ在リト雖モ稽查シテ

捕拏スベシ

第九款

局外ノ船敵國ノタメニ兵弁ヲ載セ並軍機ニ關
 スル便リヲ通スル者ハ其船ヲ併セテ捕拏スベ
 シ

但外國ニ駐劄スル敵國ノ使臣ヨリ其本國
 へ寄スル書信ハ此例ニ在ラズ

第十款

凡ソ局外ノ船ニ在リ禁物ヲ稽查スルニ船主ト
 貨主ト別人ナレバ禁物ハ固ヨリ捕拏シ其他ノ

物品モ敵貨ニ係ラバ亦同ク捕拏スベシ且又禁
物主ト船主ト同一タルカ或ハ船照ハ他往ニ
假托シテ敵國ニ赴ク者等ハ船貨均シク捕拏ス
ベシ

第十一款

凡ソ同盟局外國現ニ條約戰時禁物ヲ敵國ニ售賣ス可カラスト約ス
ヲ立有シ而シテ陰カニ禁物ヲ敵國ニ運送スル
者ハ船貨一併捕拏スベシ

第十二款

局外ノ船封港ノ地ニ至リ強テ進ロヲ謀ル者ハ

船貨一併捕拏スベシ車封港條例ニ詳ナリ

第十三款

局外ノ船空身ニテ封港ヲ出テ其近傍ニ停泊シ
別ニ小舟ヲ以テ迂路ヲ取り封處ヲ外シ貨物ヲ
裝載スルモノアレバ其貨物ハ捕拏スベシ

第十四款

局外ノ船稽查ニ服セズ或ハ強禦スル者ハ船貨
一併捕拏スベシ車查船條例ニ詳ナリ

第十五款

敵國人民ノ地基房屋我ガ疆内ニ在ル者ハ捕拏

ヲ許サズ唯其私租 産ノ封守シテ復和ノ法ヲ
待ノベシ

第十六款

敵國ノ民ヨリ負フ所ノ債欠ハ欠者ノ何人ニ論
ナク皆テ捕拏スベカラズ

第十七款

凡ソ我人民敵國ニアツテ其地ノ貨物ヲ買置宣
戰後一年ノ久ヲ経テ攜帶歸國スル者ハ其貨ヲ
捕拏スベシ

第十八款

凡ソ宣戰後我ガ人民敵國ノ牌照ヲ領シ局外友
邦ニ往テ貿易スル者ハ其貨物ヲ捕拏スベシ

第十九款

局外ノ船隻ニ船艦及ビ造船木料船ト所用ノ物
品ヲ將テ敵國ニ進ム者ハ其將ユル所ヲ捕拏
スベシ

第二十款

凡ソ捕拏ノ動物ハ廿四時間ヲ過ルカ或ハ我ガ
營内ニ持来ラハ原主ニ交還セザルヲ常例トス
其不動産ハ原主ニテ 遠スルヲ常例トス然レモ

既ニ他人ニ售ルカキダ售ラザルモ和約ノ時迄
讓文還等ノ明文ナクハ原主ノ權ハ全減シテ
現有者ニ黙讓セシモノトス

第二十一款

局外ノ船ニ裝在スル敵貨並ニ禁物ヲ捕拏スル
ニ方リ貨主船主紛議ヲ生シ貨物ヲ渡サバ爾時
ハ其船ヲ引テ戦利法院ニ詣リ決ヲ取ルベシ

第二十二款

我が公使領事若クハ將校税關及ビ特授ノ權ヲ
有セル官員ヨリ與フル護票ヲ所持スル者ノ貨

物ハ彼我ノ論ナク皆テ捕拏スルヲ許サズ

查船條例

第一款

凡ソ查船ノ權ハ唯兵船ニシテ准スル者トス民
船ハ兵照ヲ領スト雖兵之ヲ行フコト許サズ

第二款

大海上ニ於テ局外ノ船ニ遇ハバ立時截止シテ
之ニ登リ禁物ヲ載スルカ敵貨ヲ載セザルカ或
ハ敵國ノ為メニ書札ヲ密遞スルカ又ハ兵
陰送セザルカ否ヲ稽查スベシ

但局外ノ公船ハ一切稽查スベカラズ

第三款

局外ノ船ヲ稽査スルニ方リ其船強ヲ恃テ抵禦シ或ハ敢テ交戦スルニ至ラバ船貨一併スベシ

但友誼公益ノ為メ即時捕撃セザルモ亦妨ゲナシ

第四款

護洋ノ局外公船若シ其商船ヲ稽査スルヲ拒マバ其保身ヲ受ケシ船モ一同捕撃シテ戦利トスベシ

但護洋ノ船若シ敵船ナレバ強禦ノ事アリト雖モ載スル所ノ局外ノ貨物ヘ其罪ヲ及スベカラズ

封港條例

第一款

凡ソ封港ハ艦隊ノ實勢カラ以テ港口ヲ封閉シ
局外國前進ノ船舶ヲ沮遏スベシ

但實勢カナク徒ニ揭示照牌ノミヲ恃ミト
スルモノハ封港トナスベカラズ

第二款

凡ソ明告シテ封ズルモノハ弛封ノ時モ亦速ニ
明告スベシ

第三款

凡ノ明告セズシテ封ズル者ハ局外ノ私隻若シ
封處ニ前來スルアレバ我ヨリ其旨ヲ諭示シ轉
ジテ他ニ往カシムベシ若シ強テ封處ヲ犯サン
トスル者アレバ船貨一併捕拏スベシ

第四款

封港ヲ知ラズシテ入口スル局外船ハ稽査シテ
所載ノ貨物ニ戰時禁物アレバ之ヲ捕拏シ其餘
ハ他往ニ任ズベシ

第五款

大風高浪ニヨリテ我ガ守港ノ船飄蕩シテ暫時

其處ニアラザルモ封ヲ弛ムル者ニアラズ局外
者若シ該變ニ乘ジ勢ヲ以テ封處ヲ犯シ入船ス
ル者アレバ之ヲ捕拏スベシ

但局外國船風浪ノ難ヲ避ケ或ハ破損ヲ修
繕スルタメ駛テ封處ニ入ル者ハ此限ニ在
ラズ

第六款

封港ヲ告明スルノ後艦隊敵ノタメニ撃破セラ
レ即時再封スル時ハ必ズ更ニ再告
メ再告セザルニ方テハ局外船ノ出入
見テ犯

法ト為スベカラズ

第七款

港内ニ碇泊スル局外船既ニ封ロノ告明ヲ受ケ
シ後ハ敵人ト賣買スルヲ許サス若レ之ヲ犯ス
者ハ其貨ヲ捕拏スベシ

第八款

封前入口ノ局外船其貨ヲ復載シテ別地ニ往カ
ントスル者ハ封後敵人ト售買セザルノ證據確
實ナラバ出口ヲ許スベシ

第九款

局外人空船ヲ以テ封處ヲ出ントスル者ハ稽査
シテ其出ルニ任ズベシ

第十款

封内ニ在ル局外人裏河或ハ陸路ヨリ貨物ヲ運
搬シ轉ジテ別港ニ往カントスル者ハ捕拏スベ
カラズ

但空船ニテ封處ヲ出テ其近傍ニ碇泊シ裡
河陸路ヨリ運搬スル所ノ貨物ヲ該船へ積
込モノハ捕拏スベシ

第十一款

局外船貨物ヲ裝載シテ封處ヲ出ント
其裝載ノ月日ヲ查究シ乃チ封港以テ
ノハ出口ヲ許スベシ

第十二款

封港ヲ弛解スル後ハ封中局外船へ關涉ノ事故
ハ消除シテ理論ヲ要セズ

第十三款

以下二款隨時改正スベシ

局外ノ公船ハ稽查ヲ須ヒズ其出入ニ任ズベシ

第十四款

局外ノ郵船ハ稽查シテ出入ヲ許スベシ

但戰時禁物ヲ載スルアンバ之ヲ捕拏スル

シ

停兵條例

第一款

凡ソ停兵ノ約ヲ立ルニ或ハ日數ヲ多クシ或ハ
日期ナク其形ヲ略ボ和ニ似テ中ニ戰意ヲ含ム
者之ヲ全停ト云フ

但全停ノ案ハ將帥ト雖凡必ス其國命ヲ稟
テ擬定スベシ

第二款

凡ソ一方ヲ限定シ暫時兵ヲ停メテ和
ルヲ特停ト云フ

乙デ

但特停ノ議ハ彼我ノ將師之ヲ定

第三款

凡ソ停兵ノ布告未ダ遍カラザル内ニ營在セル兵卒攻撃等ノ所業アリト雖凡知テ故ラニ犯ス者ニ非レバ背約ノ責アルナシ

但海上ニ於テ停兵後敵船ヲ捕スル者アルハ必ズ之ヲ交還スベシ

第四款

停兵ノ約面ニ限ル所ノ日期ハ大抵地方ノ遠近ヲ視テ之ヲ議定スベシ

但日期ハ何月日ヨリ何月日マデト確乎條款ニ掲載スルヲ要ス

第五款

停兵ノ約已ニ成リ款上限ル所ノ地方ニ在テハ砲臺ヲ修シ兵ヲ調シ士ヲ募シ軍糧ヲ輸シ戎器ヲ製シ友國ノ援師ヲ迎フル等總テ妨ゲズ

但城池圍困ノ際ニ方テハ此例ニ在ラズ

第六款

停兵中嚮キノ戦争ノ地方ニ於テハ百事有彩ノ儘存在シ變易スベカラズ

第七款

停兵ノ日期既ニ滿テ復戰ノキハ別ニ宣告ヲ用
ヒズ

但停兵ノ期ヲ定メズ或ハ之ヲ定ルモ其リ
限長久ナレバ再戰ノ時必ズ敵國へ報知ス
ベシ

第八款

停兵期限未ダ滿タザル前忽テ交戰ノ議ヲ興ス
者ハ討償ヲ要スルモ亦妨ゲズ

和約條例

第一款

凡ソ自主ノ國交戰ノ後和約ヲ定立スルノ大權
ハ君主ニアリト雖凡土地分讓ノ權ハ國議ノ決
ヲ經ルニアラザレバ經行スルコトヲ得ズ

第二款

凡ソ交戰ノ後和約已ニ成リ土地ヲ退讓スルニ
當リ戰時民産ヲ毀壞スルアリト雖凡必ズ之ヲ
賠償セズ

第三款

和約條款ヲ定ル時ニ方リ是非曲直ヲ
シ兩國人民ヲシテ降心甘服セシムルヲ要スベ
シ

第四款

和約已ニ定ルノ後ハ本来啓衅ノ事故ハ一切前
除シ戰時曾行等ノコトヲ説起シテ理論ヲ行
カラズ

第五款

和約條款中勝者略取ニシル所ノ土地退讓文還ノ
明言ナケレバ敗者再び相爭較スルヲ得ズ

第六款

勝者略取ノ土地民物等ヲ已ニ他人ニ賣與シテ
後約中其土地勝者ニ退讓スルノ明文ノレバ民
物モ亦原有者ニ交還スルヲ要セズ

第七款

和約條款中戰時捕物ノ處分ヲ註明スル無キ時
ハ萬事其和時ノ地歩ヲ守リ其現有者ニ默讓セ
シモノトス

第八款

和議已ニ定マルト雖モ若レ遠地ニアル戰事

藩地事務

ヲ知ラスシテ劇戰屠殺スルハ犯法トナスヘ
ラス唯其捕拏ノ貨物ハ必ス之ヲ交還スルベシ

第九款

條款ヲ特立シ某ノ地方ヲ以テ戰外トナスルヲ
約スレバ豫メ先ヅ其民ニ曉諭シ其事ヲ告知ス
ベシ若シ軍人知ラスシテ其地ヲ犯シ損害ヲ
タスアレバ該國其咎ニ任ジテ之ヲ賠償スベシ
但程過ギテ討償スル者ハ賠償スルヲ用ヒ
ス

第十款

和約略定リ未ダ一般ニ告知セザル前其情ヲ
テ敢テ敵國ノ船隻貨物ヲ捕拏スル者アレハ未
ダ息戰ノ日期ニ至ラザルモ其捕物ノ一切交還
スベシ

第十一款

和約條款中既捕ノ船隻貨物ヲ交還スルノ明文
ナキ時ハ未ダ戰利法院ノ審斷ヲ經ズト雖凡之
ヲ捕者ニ屬シテ失者ノ救還ヲ許サズ

第十二款

約中略取ノ物品ヲ交還スルヲ許スト雖凡

ヲ經ルノ已ニ久シキ損滅スルヲ致スル或
ヲ得ザルノ害ニ逢テ毀壞スル者アレバ
制ヲ按照セズ其現形ヲ以テ交還スベシ

第十三款

和約已ニ定リ物件交還ノ日期未ダ至ラズ其間
ニ乘ジ故サラニ砲台ヲ折毀シ地方ヲ焚掠スル
等ノ所為ハ嚴ニ之ヲ禁ズベシ

第十四款

和約已ニ成レバ勝者取スル所ノ城池砲台普
テ修繕スルコト有ト雖モ必ズ殘毀セズ直ニ現形

ヲ以テ交還スベシ

第十五款

和約已ニ了シ其中一款ニ悖ルコトアレバ全約堅
固ナラズ故ニ豫メ一款ニ悖ルアリト雖モ全約
ニ關涉ナキコトヲ特約シテ餘地ヲ留ムベシ

但受屈者和ヲ棄ルヲ欲セザレバ仍ホ全約
ヲ固守シテ悖約ノ款ノミ直理討償スベシ

第十六款

結約ノ堅固ナラザルコトヲ顧慮スルアレバ
國或ハ彼此兩國局外友邦ニ乞フテ調處

雜例

第一款

交戦前兩國互ニアル處ノ債欠ハ復和ノ時ヲ俟テ之ヲ討索スベシ

第二款

敵國ノ民我ガ疆内ニ在ル者ハ宣戦ノ始メ日期ヲ限り貨物ヲ收拾シテ疆ヲ出デシムベシ若シ期ヲ過ギテ猶ホ滞在スル者ハ兵仗ヲ帶セザル敵ト看做シ地方官ニ於テ取締ヲ為スベシ

第三款

既ニ敵境ヲ略取スレバ其人民ヲシテ軍資
輸セシムルモ隨意タルベシ

第四款

宣戰ノ後兩國ノ人民互ニ敵視スベシト雖氏兵
員ニ非ズシテ敵人ヲ害スル一ハ嚴ニ之ヲ禁ズ
ベシ

但敵人來攻スルニ方リ自護ノため之ヲ害
スルハ此限ニ在ラズ

第五款

民船戰牌ヲ領スルモノハ海上ノ敵貨ヲ捕拏ス

ル一ヲ得ベシ

但戰牌ヲ領セサル私船モ亦海上ノ敵貨ヲ
捕拏スルヲ得ベシト雖氏其捕スル所ノ貨
物ハ之ヲ戰利法院ニ收ムベシ

第六款

海上所捕ノ敵貨ヲ處スルニ方リ貨主贖回ヲ乞
フトキハ日限並ニ前往ノ地名ヲ明記スル所ノ
護貨票ヲ與ヘテ之ヲ放回スベシ

第七款

戰者ノ權力ハ戰國ノ疆内海上無主ノ地ノ

行フベシ此三處ノ外ハ一切戰權ヲ行フベカラズ

第八款

局外者管轄ノ江河海灣砲丸ノ及ブ距離内英法三即チ我四ニ於テハ敵國ノ船隻貨物ヲ捕拏スルヲ許サズ且ツ其港口ニ停泊シテ征戰ノ地歩ヲナシ及ビ其地ヲ借り交戰ノ用ニ便スル等一切之ヲ許サズ

但戰船局外ノ地ニ進ミ糧艸需用ノ物品ヲ買得スルハ此限ニ在ラズ

第九款

貨物ニ三等アリ戰用ニ應ズルモノヲ一等トシ戰用ニ應ゼザルモノヲ二等トシ戰時平時俱ニ用ユベキモノヲ三等トス其一等ノ貨ハ局外者之ヲ敵ニ販賣スルヲ許サズ二等ノ貨ハ販賣スルモ妨ゲズ三等ノ貨ハ即チ銀錢糧艸船隻等ノ類或ハ許シ或ハ否セズ宜シク時勢ヲ審ニシテ後之ヲ定ムベシ

第十款

交戰中敵國ノ使臣局外友邦ニ赴クアレバ之ノ

捕ヘテ其路ヲ截ツベシ

但該使臣既ニ局外ノ地ニ至リ其國人禮接
ヲ受ル者ハ捕攫スベカラズ

第十一款

交戦中兩國ノ人民往来貿易スルハ例禁スベシ
ト雖氏通商裨益ノタメ或ハ之ヲ准シ或ハ物品
ヲ限テ之ヲ准スモ亦妨ゲズ

第十二款

凡ソ戦利法院ハ權衡ヲ萬國ノ公法ニ取リテ審
判スルヲ以テ地方律法ノ每國異同アル者ト同

視スベカラズ

第十三款

海上ノ捕物ハ貨主局外人ニ係ルト雖に必ズ戰
利法院ノ審斷ニ任ズベシ

但局外ノ地ニ在テ捕拏スル所ノ船貨並ニ
局外ノ地ニ船ヲ備ヘテ捕ル所ノ貨物ハ該
地ノ法院其可否ヲ審斷スベシ

第十四款

局外ノ地ニ在テ敵貨ヲ捕得スル者ハ固ヨリ交
還スベシト雖に必ズ該局外國ノ法院之ヲ討ズ

ルヲ俟テ原主ニ交還スベシ

第十五款

敵人ノ為ニ捕拏セララル、所ノ我ガ國人ノ船隻
貨物ヲ我兵之ヲ奪回スレバ其原主ニ還付スベ
シ

但戲玩ノ具ハ此限ニ在ラズ

--	--	--	--	--	--	--	--	--

